



生きた土づくりの決め手

バイオ堆肥

12kg (40ℓ)

特徴・・・ご使用者の声を参考にしました

- ★均一でまきやすい (フルイ通し)
- ★軽くて扱いやすい
- ★発芽や生育が揃う (十分な発酵でガス害なし)
- ★根張りが良い (木質原料は地力向上力が高い)
- ★高品質の割に安い (均質原料で計画生産)
- ★土壌病害が軽減 (有益菌の増殖活性化)

〈施肥例〉

作物名		使用量及び使用方法等 (10a当り)	
ハウス	果菜類	50～100袋を全面施用 (ウネ部、ベツト部のみは半量)	
	葉・根菜類	30～70袋を全面施用 (ウネ部、ベツト部のみは半量)	
	果樹類	新・改植時は0.5～1袋を植穴処理	
アスパラガス	初回 (新植時)	全層部 (40～60cm) 100～200袋全面施用	
	2回目以降	1回当り100～200袋	
露地	移定植時	作条	10～20袋を植え溝もしくは植え穴施用
		全層	30～100袋を全面施用
	生育期	20～50袋をウネ肩部、枝下部、通路等に施用	
鉢土、ポツト土、プランター土等には5～10%混合使用			

※バイオ堆肥と「菌源炭」「カニ炭」等を本圃で併用するとさらに効果的です。

取扱

製造・発売元

株式会社 **ジャット** <http://www.jaht.co.jp>

本社：〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場4-2-4

TEL 06-6121-4300 FAX 06-6121-4302

北海道 (札幌) 東北 (仙台)

関東 (さいたま) 大阪 (大阪)

九州 (久留米) 南九州 (宮崎)

＝「バイオ堆肥」はこれだけの条件を備えています＝

1 原料の良否が基本

ジャットの「バイオ堆肥」原料は肥育牛専門の特定の大型農場に仕入先を限定しています。

※ご存知ですか？品質不良の堆肥も時々あります。例えば外国産の牧草で飼育した搾乳牛の牛糞堆肥から、日本では未許可の広葉系雑草対象の除草剤が検出され、トマトや菊等に異常生育が発生した事や建築廃材のチップ堆肥で生育不良がありました。

2 醗酵から袋詰めまで全て室内管理

屋内飼育の牛舎から原料を確保し、醗酵、袋詰め段階まで全て屋内で生産管理し、野積み、雨ざらしは一切行っておりません。

(乾燥時に雑草種子が外から、僅かに飛来混入する事があります)

3 醗酵、積算温度管理を最重視

堆肥工場でよくある事例として、開設当初は十分に醗酵した良質堆肥ですが、売れ始めると出荷に追われ、未醗酵堆肥のまま供給され、生育不良トラブルになるケースがありますが、ジャットの「バイオ堆肥」には、特大の保管と製造施設面積がありますので、この心配はありません。

4 高品質は必要積算温度で作られる

バーク系堆肥は醗酵積算温度を9,000℃以上必要としますので、50℃～60℃の醗酵温度を持続するために切り返しを繰り返し、これを150日間以上維持します。従って「雑草の種」「カブト虫・ミミズ」等は死滅します。ミミズは良い堆肥を施用すると畑で堆肥を餌にして増加します。

※管理不十分の堆肥製造では70℃以上にも醗酵温度が達し、有効土壌微生物は活動を停止し、更に高い80～90℃では白化現象が起こり、焼け堆肥と称される品質不良堆肥になります。

5 製造会社も製造担当も信頼できる

微生物の働きで醗酵を進める「堆肥作り」は工業製品と異なり、厳密な数値管理は出来ません。だから信頼できる「人と会社」が品質を決めます。完成品の炭素率を経験による適正な数値とし、N飢餓を起さない科学的数値が要求されます。

畜産廃棄物は塩分濃度が高く、この塩分を無くす為には50℃～60℃で長期の微生物醗酵分解過程を経なければならず、それが出来ていなければ土壌の団粒破壊の原因ともなりかねず、結果として土をダメにします。

〈ご参考〉堆肥の「嵩」（カサ）と重量の関係

肥料や堆肥は肥料取締法で重量表示と規定されています。バイオ堆肥は良く乾燥して軽いために容量表示を併記しております。